



Rule Making Project

丹高ニュース

№4

令和6年6月11日(火)

～ 豊かな学びの実現 ～

ルールメイキングプロジェクト2024 ～“やってみたい”の創造へ～ エリアカンファレンス@えひめ

髪形

スマホ
アルバイト

「もやっと」校則なぜ？

西条・丹原高全生徒ら

議論通じ思考力磨く

校則など身近なルールについて考え、対話を通じて思考力や発信力をつける「ルールメイキングプロジェクト」の2024年度の取り組みが6日、西条市丹原町願連寺の丹原高校で始まった。学校や社会のルールについて高校生目線で意見を出し合い、学校のあるべき姿にも考えを巡らせた。

対話の文化 他校にも

全校生徒約340人に加え、市内外の別の高校から生徒25人が参加。教員も交えて班をつくり「もやっとする校則」などのテーマで意見を出し合った。

校則についての話し合いでは、髪形の規制やスマートフォン利用制限、アルバイト禁止などについて見直しを求める意見が多く出た。また「なぜ制服があるのか」「なぜテストがあるのか」など当然だと思っていた決まりについても存在理由を考え、その必要性や学校のあり方についても議論した。

丹原高でのプロジェクトは、22年度に始まった。その後、別の高校にも広がり、学校の垣根を越えた活動になった。校則変更が目的ではないが、問題提起や議論の結果、靴下の指定など一部校則の見直しにつながる成果もあった。

西条市の高校は、26年度から小松、東予、丹原の3校が新たな2校に再編される。プロジェクト開始から3年目となる今年は、新しい学校づくりをイメージした取り組みを目指すという。

2年生の貴田乃愛さん(17)は「自分の意見を話したり他人の話を聞いたりする楽しさを感じた。他校の生徒とつながる機会を増やしながら、対話の文化を新しい学校や地域に根付かせたい」と話していた。

(高橋圭太)



複数の高校から生徒が参加し、校則などについて意見を出し合った「ルールメイキングプロジェクト」

県下から8校の参加、約420名で実施。
対話を重ね、納得解を作るプロセスを学びました。
ルールメイキングからシティズンシップ教育の
学びの場となりました。